

第 64 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日時：2025 年 7 月 24 日(木) 9:00～11:00

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 会議室及びオンライン

1. 技術戦略プラン2025案について

機構から、技術戦略プラン 2025 の要旨案及び本文書の記載内容について、前回の議論も踏まえ説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 法令違反の誤解が生じない様、法令の安全基準と東電独自の安全基準の関係性について補足をすべき。
- 1F廃炉は民間企業だけの話ではなく国家的プロジェクトとも言えるものになっているため、資金面を監督するような部署、組織等の仕組みを検討した上で、早期段階から取引企業と協働体制をとることが良いのではないかと。東電だけでなくNDFや経産省とも連携していく必要がある。
- これまでリスクが高かったプール内燃料が減り、今後、デブリ取り出しと廃棄物管理のフェーズに入るのでリスク低減SEDの示し方においては今後のフェーズに適した方法を検討すべき。
- 廃炉において特に許認可に関するやり取りが今後の円滑な進行において非常に重要であり、東京電力やNDF、国、規制庁、規制委員会とのコミュニケーションがより重要になると考える。
- 個別廃棄物ストリームの成立性や安全性を踏まえた上で、ハザードの評価が行われるべきであり、NDFが成立性の考え方を示し、規制委員会とのやり取りが手戻りのないように進めることが重要。

2. 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会について

機構から、第 16 回燃料デブリ取り出し工法評価小委員会の内容について説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- デブリが構造物と一体化しているような場合、デブリを粉砕すると構造物の強度に影響が生じることも考慮して安全な工法を選ぶべき。
- 本格的な取り出し開始までの準備工程の間に直接的な止水を行うことで、局部冠水というオプションも可能になる進め方ができると思われる。この期間をうまく利用することで、オプションの柔軟性が増し多くのメリットもあるため、並行して検討を進めることが望ましい。

3. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、ALPS 処理水海洋放出の状況、1号機の燃料取り出しに向けた工事の進捗状況、6号機の新燃料の搬出の3点について説明があった。

以上